

「学校地域応援団」

地域の子どもは地域みんなで育てよう



「学校地域応援団」がめざすもの	1
これからの学校支援活動	3
学校のニーズとボランティアとのマッチングについて	4
「学校地域応援団」で期待される効果	4
「学校地域応援団」を立ち上げるためには？	5
「学校地域応援団」と「わくわくチャレンジ広場」	6
「学校地域応援団」の支援活動	7
「学校地域応援団」をすすめるための留意点	10
「学校地域応援団」についての疑問にお答えします	13

葛飾区教育委員会

「学校地域応援団」がめざすもの

○「学校地域応援団」の趣旨

葛飾区教育委員会 教育長 塩澤 雄一



「教育は葛飾の未来づくり」です。葛飾の、そして日本の未来を担う人材を健やかに育てていくことが、とりわけ学校教育には求められています。そのためには、学校が元気に満ち、子どもたちが安心して楽しく学び生活できる場なくてはなりません。

また、子どもたちは、地域の中で見守られ、様々な人々との交流の中で健全に成長していくものであり、学校と地域とが良好な協力関係にあるということも大変重要なことです。

葛飾区では、これまで地域の方や団体が、様々な形で学校運営を支援する取組が行われてきました。今後も、家庭や地域が学校を応援することによって、学校だけでは対応が難しい課題の解決や子どもたちへのより良い教育環境の提供に繋げていくことが必要です。

そこで、学校ごとに「学校地域応援団」を立ち上げ、学校・家庭・地域の協働により、学習支援や安全支援、教育環境の整備など、子どもたちが健やかに育ち、生き生きと過ごせる学校づくりを進めていきたいと思っております。それと同時に、「学校地域応援団」の活動を通して、地域の方々相互の交流や連携も一層深まっていくことを期待します。

○「学校地域応援団」の目的

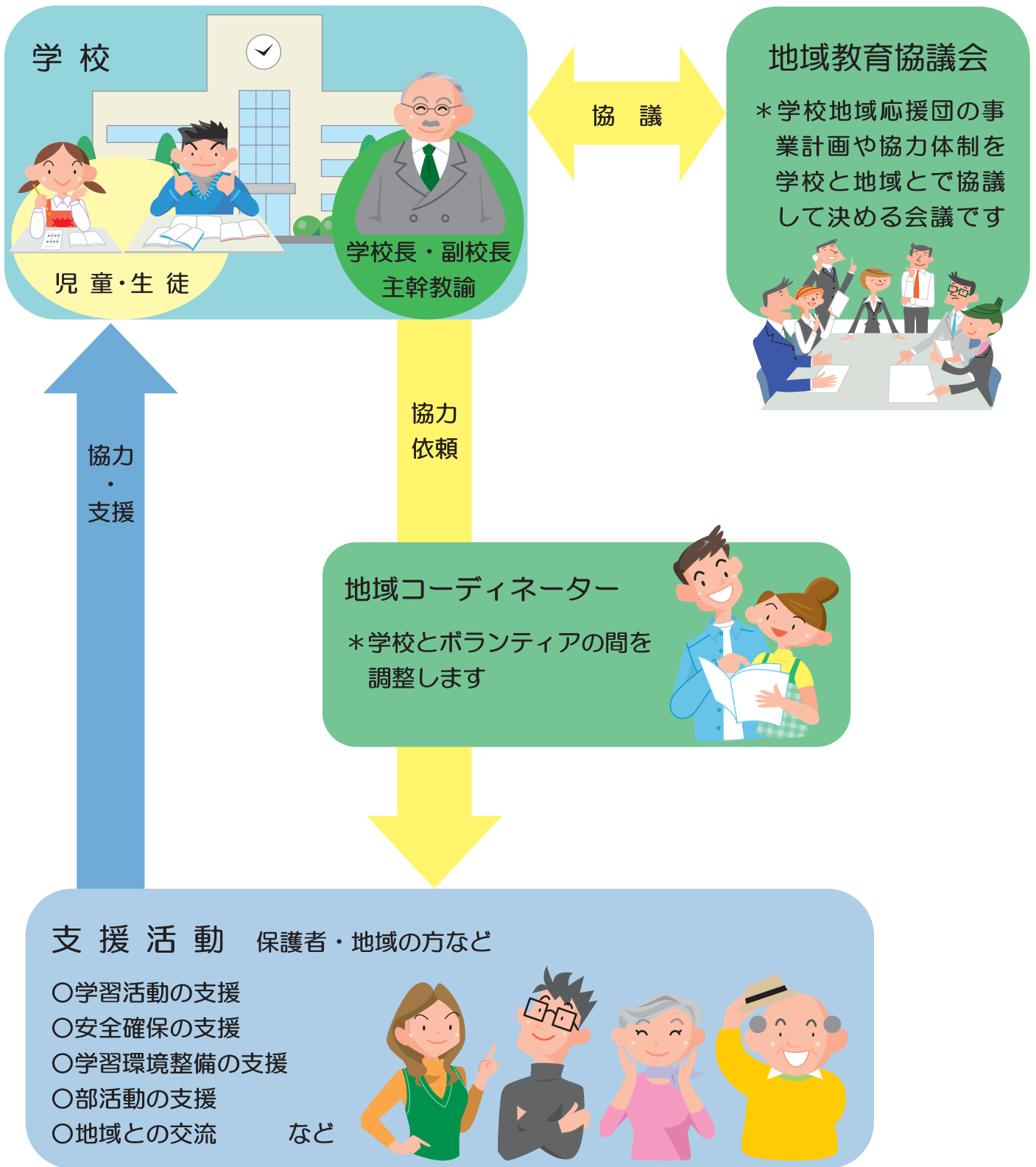
「学校地域応援団」は、学校の求めに応じ、学校・家庭・地域が一体となって学校教育を支える仕組みを整備する取組です。

- ◆学校長の学校経営方針に基づき、これまで学校・家庭・地域と一緒に築きあげてきた支援活動やボランティアとの連携を、より強化する方向へ再構築していくものです。
- ◆地域の人材を活用することで、学校の教育力を高め、各学校の特色や工夫を生かした教育活動を推進していきます。
- ◆事業計画や協力体制の内容については、学校、保護者、地域の方、ボランティア団体の代表の方が、地域教育協議会（P5参照）の中で話し合い、決めていきます。
- ◆地域コーディネーター（P5参照）が、学校と保護者・地域の方等とを繋ぎながら支援活動を進めます。また、これらの活動を通じてボランティアを広く求めることができます。



「学校地域応援団」がめざすもの（続）

○「学校地域応援団」のしくみ

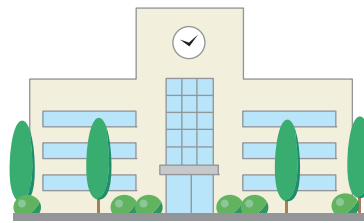


これからの学校支援活動

これまで葛飾区では、地域の個人や団体が様々な形で学校運営を支援する取組を行ってきました。

しかしながら、これまでの支援は、図のように、個人や団体それぞれが支援し、ボランティア同士の横のつながりは、あまりありませんでした。異なるボランティアも同じ方が重複して担うことも多く、ボランティアを集めるネットワークも学校長や、ボランティア個人の力に負うことが、少なくありませんでした。

また、ボランティアの活動が、広く知られることもありませんでした。



PTA 活動

学校図書館
ボランティア

授業支援

環境整備



「学校地域応援団」を立ち上げることで

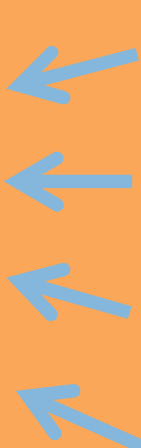
「学校地域応援団」は、学校を支援する関係者が集まり、地域教育協議会の中でどのような支援活動を行うかを話し合います。

また、地域コーディネーターが、支援活動の内容について保護者や地域の方にお便り等で報告することで、支援活動への理解が深まり、図のように、支援団体が一体となって強力に学校を支援していきます。

こうして、支援活動が広く理解されるようになることで、ボランティアをより多く集めることが可能となります。



学校
地域
応援
団



PTA 活動

学校図書館
ボランティア

授業支援

環境整備



学校のニーズとボランティアとのマッチングについて

これまで、地域の方が学校でボランティア活動をしたいと思っても、受け入れ先がないことや、逆に学校でボランティアを募集しても応募がないなど、学校のニーズとボランティアの希望が一致しないことがありました。また、学校は、児童・生徒の安全を考慮するため、ボランティアの受け入れに慎重にならざるを得ない実情がありました。



「学校地域応援団」を立ち上げることで

地域コーディネーターが、地域の中からのボランティア希望者を学校に紹介します。また、地域教育課としても、学校のニーズを伺いながら、区のホームページ等を活用して、広くボランティアを募集します。ボランティアを希望する方には、学校支援ボランティアの仕組みを説明し、登録していただきます。登録後、地域教育課が、ボランティアを希望する学校の地域コーディネーターへ紹介します。地域コーディネーター、学校長との面談の後、学校のニーズに合った方は、ボランティアとして活動していただきます。

*もし、マッチングできなかった場合は、学校や地域コーディネーターにご迷惑をおかけすることがないように、地域教育課が対応します。

「学校地域応援団」で期待される効果

児童・生徒には

○様々な知識や経験を持つ地域の方が、学校の教育活動に関わることで、児童・生徒が、多様な体験や経験に接することができます、学びが深まります。

○地域の大人とふれ合う中で、児童・生徒のコミュニケーション能力や社会性が育まれます。



地域の方には

○児童・生徒から元気もらえます。

○学校が、自らの経験や学習の成果を活かせる場となります。

○学校を核として活動をする中で、大人同士の関係が深まり地域の活性化に繋がります。

○団塊の世代など、地域活動に参加したいと考えている方へ活動の場を提供できます。



学校には

○教職員だけではできなかった教育活動や環境整備が可能となることで、教育の多様化や質の向上を図ることができます。

○地域の方の学校への理解が深まります。



「学校地域応援団」を立ち上げるためには？

「学校地域応援団」は、以下のような流れで立ち上げます。

◆学校経営方針の明確化

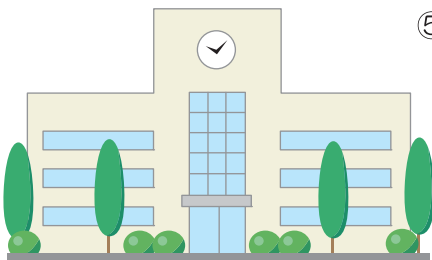
- ①学校長の学校経営方針に基づき、学校が地域の方の協力を得て行う支援活動を検討します。
- ②事業計画書を作成します。

◆学校と地域との調整

- ③事業計画書を基に、地域や保護者、支援団体の方と話し合います。
*正式な立ち上げの前に、意見交換のための準備会（学校評議員、PTA、ボランティア団体等を対象）を開くことが一般的です。

◆学校地域応援団の立ち上げ

- ④「地域教育協議会」を立ち上げ、事業計画や協力体制を協議します。
地域コーディネーターを選出・決定します。
- ⑤地域コーディネーターを教育委員会が委嘱します。



◆学校地域応援団の支援活動の開始

- ⑥地域コーディネーターが、保護者や地域の方に支援活動への参加を呼びかけ、学校を支援します。

地域教育協議会とは・・・

学校に関わっている地域やボランティア団体の代表が集まり、事業計画や協力体制を話し合う会議です。メンバーの構成については、活動内容や地域の実情に合わせて、相談して決めていきます。

【メンバー例】

学校評議員、学校関係者評価委員、PTA代表、自治町会、ボランティア団体、スポーツ団体、民生委員・児童委員、学校長、副校長、主幹教諭 など

地域コーディネーターとは…

学校と話し合い学校地域応援団の支援活動（活動内容やボランティア）を調整する役割を担う人です。選出にあたっては、学校長または地域教育協議会からの推薦が必要です。

【役割】

- 学校と打ち合わせをして学校のニーズを把握します
- 支援活動に参加する人や協力体制の調整をします
- 学校地域応援団活動のお知らせや報告をします

「学校地域応援団」と「わくわくチャレンジ広場」

葛飾区では、地域の方の協力のもと、小学校全校で「わくわくチャレンジ広場（放課後子ども事業）」を実施しています。

「わくわくチャレンジ広場」は、地域の方が主体となって、学校の教室や体育館、校庭を活用して、放課後や土曜日、夏休み等の学校休業日の子どもたちの居場所づくりに取り組むものです。

地域や保護者の方の協力によって、小学校の児童が、放課後等の時間帯に学校施設を使い、遊びや活動を通じて自主性や社会性、創造性を育むことを目的とする事業であり、運営は、地域の方を代表とした運営委員会が行っています。

一方、「学校地域応援団」は、学校と十分な連携を図りながら、学校の教育活動全般の支援や、教育環境の整備を図るものです。

登校	授業時間	授業時間終了後
学校地域応援団（例）		
登校 見守り	読み聞かせ、ゲストティーチャー 授業支援 （家庭科、図工、書道、ドリルの丸つけ） 教育環境の整備（芝生の維持、校内清掃活動、校内環境美化、図書館整備、花壇整備）	放課後学習教室（漢検・数検） 下校見守り
		わくわくチャレンジ広場（例） 自由遊び、自主学習 カリキュラム活動 （茶道、手芸、工作、野球、サッカー、 グラウンド・ゴルフ等）

◆注意点（ボランティアの謝金について）

わくわくチャレンジ広場で児童の見守りをする児童指導サポーターは有償ですが、学校地域応援団で活動するボランティアは無償です。

このため、わくわくチャレンジ広場の児童指導サポーターの方が、学校地域応援団のボランティアとして活動される場合には、無償のボランティアであることを、あらかじめご理解いただく必要があります。

「学校地域応援団」の支援活動例（小学校編）

地域や保護者のご協力をいただきながら、小学校では、以下のような支援活動が行われています。

<p>学習活動への支援</p>	<p>授業の補助（家庭科の調理・裁縫、図工、書道、総合の学習） 算数の丸つけ、伝統芸能や文化の体験、プール指導、図書の読み聞かせ、ゲストティーチャー</p> 
<p>教育環境の整備</p>	<p>校内・校外の清掃、校庭芝生の維持・管理、花壇の整備、図書館の整備</p> 
<p>部活動支援</p>	<p>クラブ支援（管楽器クラブ）演奏会への呼びかけ、楽器の搬出入</p> 
<p>体験学習活動の支援</p>	<p>外部講師とのイベント（スポーツ、読み聞かせ、縄なし） 畑づくり、植ええ、菖蒲植え</p> 
<p>地域活動への参加</p>	<p>地域のイベントへの参加協力（スポーツ大会・地域安全活動）</p>

「学校地域応援団」の支援活動例（小学校編・続）

放課後の活動支援	わくわくチャレンジ広場、放課後学習教室（漢検、数検）  
学校安全活動の支援	登下校時や校内の見回り、安心まちづくり、あいさつ運動、護身術教室  
家庭の教育力向上の支援	PTA 支援（保護者会での保育室の設営） 入学説明会での家庭教育の大切さを伝える講話  

「学校地域応援団」の支援活動例（中学校編）

地域や保護者のご協力をいただきながら、中学校では、以下のような支援活動が行われています。

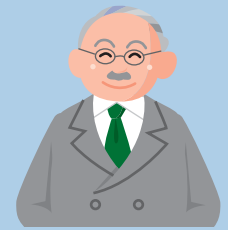
学習活動への支援	キャリア教育のゲストティーチャー、夜間補充教室、土曜補充教室   
教育環境の整備	校内の清掃（窓そうじ、ペンキ塗りなど）、図書館の整備   
部活動支援	楽器の搬送、試合や演奏会等の付き添い

「学校地域応援団」の支援活動例（中学校編・続）

<p>様々な体験学習活動</p>	<p>生徒会同士の交流、青少年育成地区委員会役員と生徒会との交流会</p>  <p>模擬面接、生徒のボランティアの仕事探し、職場体験の場所探し</p>  <p>生徒と地域の方との連携事業（文化祭、農園、清掃活動）</p> 
<p>放課後の活動支援</p>	<p>自習時間の見守り</p>
<p>学校安全活動の支援</p>	<p>登下校時のあいさつ運動</p> 
<p>家庭の教育力向上の支援</p>	<p>家庭教育についての保護者・学校・地域との懇談会</p> 

「学校地域応援団」をすすめるための留意点（学校編）

- 支援活動の内容を明確にしましょう
- 地域コーディネーターやボランティアの気持ちを大切にしましょう
- ボランティアを求める時は、余裕をもってお願いしましょう
- ボランティアが活動へ入る前には、事前に児童・生徒に話をしましょう
- 活動のふりかえりをしましょう



○支援活動の内容を明確にしましょう

学校が、支援活動の内容を明確にすることで、地域コーディネーターはボランティアの募集がしやすくなります。また、ボランティアは、安心して活動に参加できます。



○地域コーディネーターやボランティアの気持ちを大切にしましょう

支援活動は、児童・生徒や学校に対する地域の方の温かい気持ちが原動力となっています。そのためには、地域コーディネーターやボランティアの思いを受けとめ、「やってよかった」、「またやろう」と思って、気持ちよく活動していただけるようにしましょう。

○ボランティアを求める時は、余裕をもってお願いしましょう

ボランティアの確保は、急には難しいこともあります。地域コーディネーターと相談しながら、事前に必要な人数を知らせておきましょう。また、直前になっての支援活動の日程変更は、無いようにしましょう。

○ボランティアが活動へ入る前には、事前に児童・生徒に話をしましょう

ボランティアが、何のために来てくれているのかを児童・生徒へ伝えましょう。また、児童・生徒たちが、地域の大人に支えられている存在であることを気づかせるような指導を心がけましょう。

○活動のふりかえりをしましょう

次の活動に繋げることができるよう、活動内容の成果や課題、改善点について、教職員同士や地域コーディネーターと意見交換をすることが大切です。

ボランティアは、足りない部分の補完や無償の労働力ではありません

“ありがとう”の感謝の気持ちをもって、ボランティアとの信頼関係を築きましょう。時には一緒に活動をし、お互いの信頼関係を深めていきましょう

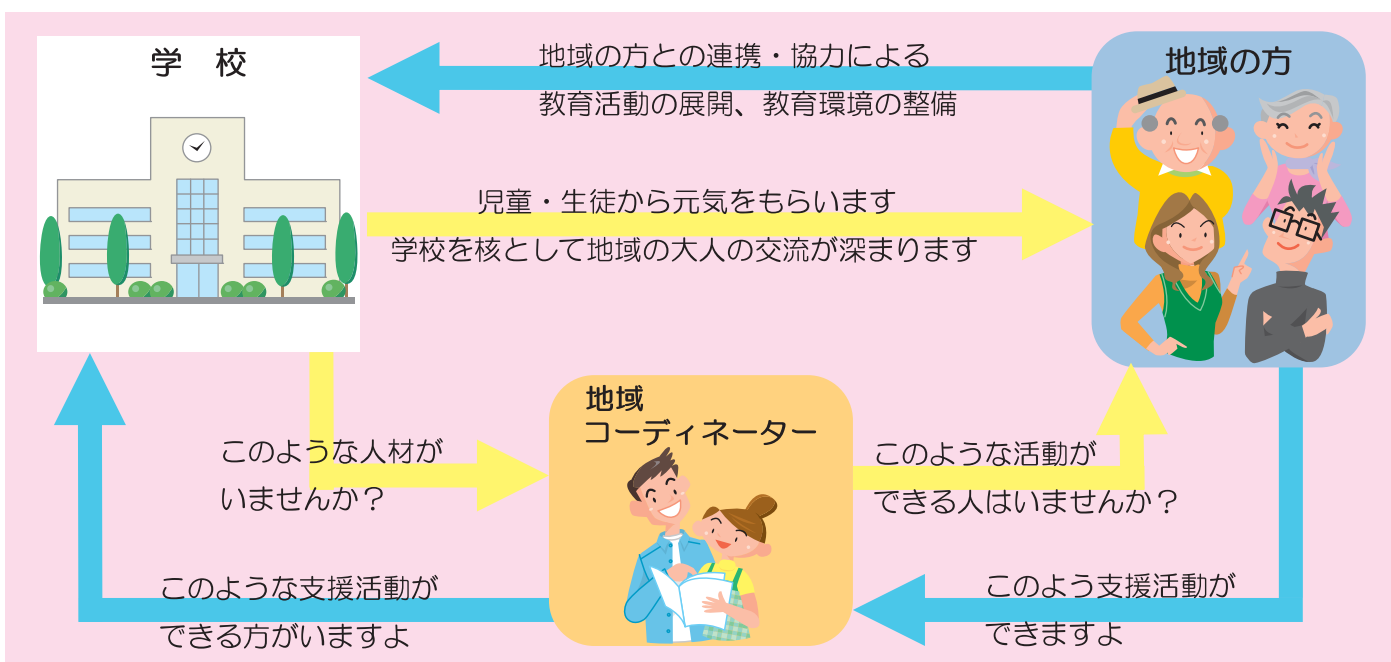
「学校地域応援団」をすすめるための留意点(地域コーディネーター編)

◎学校と地域とのパイプ役です

- 学校のニーズを、教職員と話し合い把握しましょう
- 学校とボランティアの間を調整しましょう
- 学校地域応援団の活動を知らせましょう



◎学校と地域とのパイプ役となります



○学校のニーズを、教職員と話しあう中で掴みましょう

学校のニーズを掴むためには、教職員とのコミュニケーションが大切になります。校長室や職員室に積極的に顔を出し、話をする中で学校のニーズを掴みましょう。

○学校とボランティアの間を調整します

学校のニーズを掴んだら、ボランティアを集めます。地域との繋がりを活かして、保護者や地域の方に積極的に声をかけボランティアを集め、活動に参加しやすいように学校と話し合い調整します。

○「学校地域応援団」の活動を知らせましょう

保護者の方の中には、児童・生徒たちを温かく見守ってくれる大人の存在がいることに気付いていないこともあります。そこで、ボランティアや支援活動を紹介する簡単なお便りの発行や、自分が出席する地域の会議の中で、「学校地域応援団」についてPRしましょう。それらが、「学校地域応援団」についての理解を深めます。

地域コーディネーターの活動に悩んだ時にはこの人に相談を！

- 学校長または担当の教職員
- 地域教育課職員
- 他の学校の地域コーディネーター

「学校地域応援団」をすすめるための留意点（ボランティア編）

- 活動の前に打ち合わせを十分にしましょう
- 児童・生徒を褒めましょう 時には厳しく、毅然とした態度で注意をしましょう
- 明るいあいさつを心がけましょう
- 活動の中で気づいたことは、相談しましょう
- ボランティアの輪を広げましょう



○活動の前に打ち合わせを十分にしましょう

地域コーディネーターや教職員と話し合っ、学校のニーズを理解しましょう。特に、授業に入る場合は、教職員の学習のねらいや目標をきちんと理解することが大切です。当日の持ち物や活動内容、場所を確認しておきましょう。



○児童・生徒を褒めましょう 時には厳しく、毅然とした態度で注意をしましょう

児童・生徒の良いところを見つけて褒めてあげましょう。児童・生徒は、褒められることで、意欲的に活動に取り組むようになります。しかし、友達を悲しませるような言動や、怪我や命に関わるような行為があったときには、遠慮することなく、きちんと注意をしましょう。

○明るいあいさつを心がけましょう

児童・生徒の手本となるように、明るい声であいさつをしましょう。



○活動の中で気づいたことは、相談しましょう

活動する中で気づいたことや、対応に困った時は、そのままにすることなく、地域コーディネーターや教職員に必ず相談するようにしましょう。

○ボランティアの輪を広げましょう

ボランティアの仲間を増やし、楽しく継続的に取り組みましょう。困ったことがあっても仲間と相談することで、より良い活動ができるようになります。

以下の4点は絶対に守らなければなりません！

- 活動の中で知りえた個人情報を話してはいけません
- 学校や教職員、他のボランティアの批判や悪口を児童・生徒の前で言ってはいけません
- 児童・生徒が言うことを聞かなくても、叩いたり、どなったりして注意してはいけません
- 教職員のねらいや目標を考えず、自分の考えだけで行動してはいけません



「学校地域応援団」についての疑問にお答えします

「学校地域応援団」の支援活動について

Q1. 支援活動はどうやって決めるのですか？

A1. 学校の求めに応じた支援活動ですが、地域教育協議会の中で、学校と地域の方が協議して決めます。

Q2. これまでの支援との違いは何ですか？

A2. 地域教育協議会の中で、学校と自治町会やボランティア団体などと話し合うことで、学校と地域の実情に合った支援活動を進めることができます。話し合いの中で、お互いの活動を知り、協力体制を構築するなど、学校を支援する方々の輪を繋げます。また、地域コーディネーターが、支援活動への参加を広く呼びかけ、ボランティアが参加しやすい仕組みを作ります。

地域コーディネーターについて

Q3. どのような人が地域コーディネーターになるのですか？

A3. 資格要件は定めておりませんが、学校教育に理解があり、地域の実情に精通している方が適任と考えます。

Q4. どのように選出すれば良いですか？

A4. コーディネーターの選出は、学校教育や地域の実情等に精通する方の中から、学校長または地域教育協議会からの推薦を受けて選出します。

Q5. どのような役割がありますか？

A5. コーディネーターの役割は、学校とボランティアとの調整、支援活動のPRなど、活動を進めるための学校と地域とのパイプ役です。

具体的には、学校長、副校長と話し合い、支援活動を進めるために、活動計画の作成やボランティアへの参加の呼びかけ、ボランティアの声を学校に伝えます。また、地域の方や保護者へ、お便り等を通じて支援活動のPRをします。

Q6. コーディネーターに負担はかかりませんか？

A6. できるところから無理をせずに活動することをお願いしています。地域教育課では、地域コーディネーターからの相談をお受けしアドバイスをすることにより、地域コーディネーターの負担軽減を図っています。

「学校地域応援団」についての疑問にお答えします（続）

教育委員会のサポートについて

Q7. 「学校地域応援団」の立ち上げについてのサポートは？

A7. 「学校地域応援団」の立ち上げにあたっては、学校や地域へご説明に伺わせていただきます。

Q8. 「学校地域応援団」のPRとボランティアの確保については？

A8. 区のホームページや広報紙を活用しながら、各学校の支援活動をPRしていきます。また、ホームページで広く人材を求めるとともに、学校支援ボランティアの制度を活用しながら、地域の方が「学校地域応援団」に参加しやすい仕組みを作っています。

Q9. 地域コーディネーターへのサポートについては？

A9. 地域コーディネーターからの相談をお受けしアドバイスをすることにより、地域コーディネーターの負担軽減を図っています。また、研修やミーティングを実施することで、地域コーディネーターのスキルアップ（技能向上）や悩みを解消するお手伝いをさせていただきます。

Q10. 財政的にはどのようなサポートがありますか？

A10. 現在以下のような予算措置をしています。

報 償 費：地域コーディネーター（毎月）、イベントの講師謝礼（年1回）

消 耗 品 費：購入していただけるものは、事務用品等です。

ご不明な点は、地域教育課へお問い合わせください。

通信運搬費：地域コーディネーターにお渡しします。ボランティアへの連絡や、地域教育協議会やイベントの開催通知に使用していただいています。

Q11. ボランティアの活動中の保険は、どうなりますか？

A11. 安心して「学校地域応援団」の活動ができるよう、活動中の事故や怪我、賠償を対象にした保険に葛飾区で加入しています。



平成24年12月発行 葛飾区教育委員会事務局 地域教育課 地域家庭連携係
電話 03-5654-8589(直通)

*この冊子は、印刷用の紙へリサイクルできます

